

2019年2月12日

長野県知事 阿部守一様

リニア中央新幹線建設を巡り「トップ会談」に向けての申し入れ

日本共産党飯田下伊那地区委員会

委員長 水野 力夫

日本共産党飯伊地方議員団

団長 唐沢 啓六

春寒の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

日本共産党はリニア中央新幹線の工事をいったん中止、計画の再検討を求めています。同時に、工事や計画が本格的になり募る住民の不安に応えるために何度も現地に足を運び、住民の皆さんと懇談を行ってきました。

阿部知事とJR東海金子社長との「トップ会談」が2月15日に行われるにあたり、この数か月間の関係住民への聞き取り調査や、懇談で出された緊急の要望を下記の3項目にまとめましたのでJR東海にお伝え頂きますようお願いいたします。

1、リニアトンネル工事にとまなう残土埋め立て地は下流域の住民合意が不可欠です。JR東海は事業者として残土の排出責任があります。

昭和三六年の「三六災害」を経験している飯田下伊那では沢や谷への埋土に関し、将来にわたり、万が一の災害時の危険を常に念頭に置かなければなりません。

より安全な埋め土候補地の確保が求められる中、土地が明確に確定しないままでのトンネル掘削は中断してください。また、将来にわたり万が一の大規模災害時の責任を明確にしてください。

2、大鹿村に向かう県道松川インター大鹿線及び村内道路のダンプカーの通行によって村内の生活、旅館業などに影響が出ています。工事期間中のダンプカーの通行に関して村民の生活、営業を守るよう住民の要望にそって対応してください。

また、担当者や説明会での口約束も含め、関係住民との合意をJR東海の都合によって一方的に変更することのないよう、誠実に対応してください。

3、リニア本線の用地取得に向けての交渉は地権者及び周辺住民が納得するよう対応してください。

以上